
境界線上の庶務

プラシド12

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

境界線上の庶務

【Nコード】

N6196X

【作者名】

ブラシド12

【あらすじ】

前倒しされた歴史再現があるなら後回しされた歴史再現もある。これは古い歴史再現の為、武蔵にやって来た”剣聖”塚原・ト伝が武蔵アリアダストの皆と共に歩む物語。

境界線上に存在する庶務（前書き）

BS時代劇『塚原卜伝』とカワカミンの大量放出とアニメ化の三つが交差した結果がこの作品。

感想、コメントを全裸で待ってます。

境界線上に存在する庶務

緑で彩られた山岳地帯を八つの黒い点がゆっくりと進んでいる。遠目から見る小さく見えるが、近づいてみると実は数キロもの範囲に渡る影だと確認できる。

ではその影は何処から落とされているのか？

当然、上空である。

空に浮かぶ船。

それが巨大な影を落とす正体であった。

それも唯の船ではない。

表層部に町や自然公園を乗せた航空都市艦八艦からなる準バハムト級航空都市艦・武蔵。

現在の神州の直轄領土である。

『市民の皆様、準バハムト級航空都市艦・武蔵が、武蔵アリアダスト教導院の鐘で朝八時半をお知らせ致します。本艦は現在、サガルマータ回廊を抜けて南西へと航行、午後に主港である極東代表国三河へと入港致します。生活地域上空では情報遮断ステルス航行に入りますので、御協力御願致します。——以上』

時報のチャイムが終了し、代わりに一つの音が生まれた。

「よう——し、三年梅組集合ー！」

音の主は一人の女だった。

黒い軽装甲型ジャージの、背筋の伸びた女だ。

彼女はアリアダスト教導院の門と校舎の間にあるグラウンド、その上に架かっている橋の上にいた。

「では、これより体育の授業を始めます。」

そう言った女の前には、白と黒の制服を着た若者達がいた。人であれば、そうでもない者もいる。

そんな彼等に彼女はこう言った。

「さて、ルールは簡単です。」

女は顎をしゃくつて、艦群の先を示す。

「いい？先生これから品川の先にあるヤクザの事務所まで、ちょっとヤクザ殴りに全速力で走って行くから、全員ついてくるように。そつから先は実技ね。」

教師の言葉に、制服姿の群、生徒達から、え？ という声があがった。

だが女教師はそれを無視し笑顔を作る。

「遅れたら早朝の教室掃除でもしてもらおっかな。——ハイ返事は？Jud・【ジャッジ】？」

「——Jud・【ジャッジメント】」

返事は、了解の意を示す Jud・ を、皆が返した。同時に手が上がった。

”会計 シロジロ・ベルトーニ”という腕章をつけた長身の男子が問う。

「教師オリオトライ、体育と品川のヤクザとどのような関係が。金

ですか？」

女教師、オリオトライは返す。

「馬鹿ねえシロジロ、体育とは運動することよ？　そして、殴ると運動になるのよ。そんな単純なこと、——知らなかったとしたら問題だわ」

名を呼ばれた生徒の袖を、横の女子制服の姿が引つ張る。

”会計補佐　ハイデイ・オーゲザウ、アラー”という名札のロングヘアは、笑顔のままで言う。

「ほらシロ君、オリオトライ先生、最近表層の一軒家が割り当てられて野放図に喜んでたら地上げに遭って最下層行きになつてビール飲んで暴れて壁割って教員課にマジ叱られたから。——つまり中盤以降は全部己のせいなんだけど、初心を忘れず報復なんだと思うのよね。」

「報復じゃないわよー。先生、ただ単に腹が立つたんで仕返すだけだから。」

「同じだよー！」

皆が突っ込むが、オリオトライは気にする風もない。

そして彼女は背負っていた背中の長剣を鞘ごと手にして脇に抱えた。鞘の表面、ブランド名である。

IZUMO のエンブレムを手で撫で、IZUMO 特有の斬撃効果重視で柄がわずかに折れ曲がったデザイン、その柄に指を添える。そして彼女は言った。

「休んでるの、誰がいる？ ミリアム・ポークウは仕方がないとして、あと、東は今日の昼によやく戻ってくるって話だけど、他は、――」

問いに皆それぞれ顔を見渡した。

すると黒い三角帽の少女、”第三特務 マルゴット・ナイト”という腕章の金髪少女が口を開く。

彼女は背にある金の六枚翼を左右に揺らしつつ。

「ナイちゃんが見る限り、セージュンとソーチョー、それとツカちゃん和サモちゃんがいないかなあ。」

その声に、彼女の腕を抱いている黒翼の少女”第四特務 マルガ・ナルゼ”が首を傾げた。

「正純【まさずみ】は小等部の講師をしに多摩の小等部教導院に行ってるし、午後から酒井学長を三河に送りに行くから、今日は自由出席の筈。ト伝【ぼくでん】も小等部で剣道の指導をしていて、左門【さもん】はその付き添いをしてるから指導が終わり次第私達と合流するから同じく自由出席。総長……トリーは知らないわ。」

「んー、じゃあ”不可能男【インポッシブル】”のトリーについて知ってる人いる？」

問いかけに、皆が一つの場所をみた。

皆の中心から少し後ろに下がったところ。

そこに立つ茶色ウェーブヘアの少女だ。

彼女は腕を組み、口に弓の笑みを作ると。

「フフ、皆、うちの愚弟のトーリのことがそんなに聞きたい？ 聞きたいわよね？ だって武蔵の総長兼生徒会長の動向だものね。フ。——でも教えないわ！」

ええっ？ と皆が疑問の声を作る。すると対する彼女は意味ありげに一つ頷き。

「だって朝八時過ぎに私が起きたらもういなかったから。」

「お前いつもハイテンションなくせに起きるの遅えよ！」

突っ込みを無視して彼女は言った。

「フフ、人様の朝食も作らず早起きとは、死後の審判で審判員にフオアボール判定食らって地獄に堕ちるといいわ！ 何しろそろそろ末世で世が終わるしね！」

「あー、喜美ちゃん？」

ナイトの呼びかけに、喜美は眉を浅く立てた顔で振り向いた。

「マルゴット、……………その名は無しよ？ 葵・喜美なんて、まるで”青い黄身”みたいでどんな餌食って尻から出したか解らないような名前。だからベルフローレって呼ぶの、いい？」

「ナイちゃん思っただけど、三日前はジョゼフィーヌじゃなかったかな？」

「あれは三軒隣の中村さんが飼いだから無しよ！ あの女、老後の楽しみに獣が幼女の段階から首輪つけて全裸で調教しようと

は可愛らしくていい趣味だわ！ 悔しいから今度抱かせて貰うのよ！？ ねえ、これって負け犬！？」

どーだろーね、と襟首掴まれがくがく揺らされているナイトが視線を逸らして言っている間に、オリオトライはジャージの懷から出席簿を出し黙々とチェックをつけていく。

「じゃ、トーリは遅刻、かな？ 生徒会長で総長なのにコレはいかはいかんねー」

彼女の台詞に、皆が力ない笑みを作った。ま、まあという声も聞こえる。

そして対するオリオトライも、そんな皆に対して苦笑を返す。

「ま、武蔵の総長があんまりっかりしてるとヤバイしね。——訳ありだから。」

彼女はちよつと辺りを窺うように視線を配ってから、口を開く。

「面倒よね。眼下にある神州は私達の領土だったのに、”重奏世界崩壊”によって重奏世界から落ちてきたもう一つの神州と虫食い状態で合体、”重奏統合争乱”のあと、各国に占領され神州という名を”極東”に変えられ、今や各国に暫定支配されて皆極東居留地に追い込まれ、——神州の直轄領土が、この武蔵だけだしね。」

空の、幾つもの柱状空間に区分けされた雲の流れをみながら。

「軍事制圧、政治支配しないという条約上、世界各国は聖譜連盟を立て、政府と軍事機関の代理として教導院という訓練施設をもって乗り込んできたわ。現在、極東を分割的に暫定支配してるのは、主

要各国の教導院。そして支配下の君主達を利用しながら、本来の領土戦争を教導院間の学生抗争として行ってるのよね。」

そして。

「この武蔵は、地上の暫定支配された土地や各国の用意した極東居留地とは別で聖連が唯一認めた極東の領土だけど、やはり聖連の監督を受けている、と。何しろ極東の教導院の総長と生徒会長には――

――」

「――教導院の中で、最も能力の低く、何も能がない者が選出される。トーリのような、そしてトーリには”不可能男”なんて字名【アーバンネーム】を与えまでして。」「でも、そんなことをする理由としては、”それが極東が平和であるという事実を証明するものである”だよな?」

そう言葉を投げかけてきたのは、眼鏡を掛けた少年だった。

”書記 ネシンバラ・トゥーサン”という腕章の彼は、宙に表示していた鳥居型の表示枠を閉じて言う。

「もう、百六十年前からそうだもんね。武蔵は極東の中心になろうにも移動ばかりの権力骨抜きだし、各国は学生に上限年齢が無制限なのに、極東の学生は十八で卒業だし、――そしたら政治も軍事も出来ないんだから。」

それを聞いたオリオトライが。

「極東ではよく言うわよね、――学生は特権階級だ、って。」

「聖連の物言いだと、学生じゃないものは人にあらず、ですよな。」

ネシンバラの発言に、何人かから、注意の声が生まれる。中でも一人、“御広敷”という名札をつけた丸い体型の少年が袋菓子を口にしつつ。

「小生、あまりそういうこと言っていると危険ではないかと——」。

「大丈夫だよ。」

ネシンバラが言う。

「確かに船外は聖連の武神が飛行して監視中だけど、もうすぐ極東の支配者で武蔵の持ち主、松平・元信公の三河圈内だからね。三河は聖連を半脱退して敵対中のP・A・ODAと同盟してるから、迂闊に聖連も動けない。——気にする事はないよ」

それに対し。

「普段なら、ね。でも今回、三河には監視の三征西班牙【トレスエスパニア】だけじゃなく、K・P・A・Italiaの教皇総長が三河製の個人用大規模破壊武装である大罪武装【ロイズモイ・オブ口】の新型を無心に来るって話よ。ちよつと気にしなさい——ちよつとでいいけど、ね。」

オリオトライは口端に笑みを持って言う。

「予言の歴史書である聖譜が更新されなくなり、原因不明で解決不能。最後の記述が1648年の“ウエストファールン会議”、会議を経て世界が終わる末世かも知れないって言われてる。確かに地

脈も乱れ、それが原因で各所で怪異が多発してるし、皆も知ってるわよね。M・H・R・R・【神聖ローマ帝国】の”笛吹男の神隠し”とか上越露西亞【スヴィートルーシ】の”空白の大地”とか。」

言葉に、戦闘可能な家系や術式系の生徒が表情を硬くする。

彼等は地脈の乱れで発生した妖物を祓うためにかり出されることもあり、怪異の情報に詳しい。

女教師がわずかに身を低くした。

そして彼女は、今の動きに瞬間的に反応した者達を見てこう言った。

「いいね、戦闘系技能を持ってるなら、今ので”来”ないとね。だから、死んだ気でついて来なさい。ルールは簡単、ヤクザの事務所にたどり着くまでに先生に攻撃を当てることが出来たら——。」

告げる。

「出席点をプラス五点。意味解る？——五回サボれるの。」

最後の言葉に皆が表情を変えた。

「つまり朝の一時限目を五回サボれるのか……。だったら——。」

はい、と手を挙げたのは帽子を目深にかぶった”第一特務 点蔵・クロスユナイト”と航空系半竜の”第二特務 キヨナリ・ウルキアガ”だった。

「先生、攻撃を”通す”ではなく、”当てる”でいいで御座るな？」

「おうおう、戦闘系は細かいわねえ。——でもまあ別にそれでい

いわよ？ 手段も構わないわ。」 その言葉に、ウルキアガが竜目で点蔵を見下ろし。

「きいたか？ 女教師が何したっていいと申したぞ点蔵。拙僧、想像力使用していいか？」

「Jud。しかと聞いた。しかしあの女教師、オゲ殿のさっきの話以外にも、先日酒場で尻触られ”そうになった”とかで居住区画の床抜く暴動を一人で起こしたで御座るよ。」

「フ、点蔵。現実を前にしても想像は無敵だ。忍の貴公がそんなことにも気づかぬとはな。」

「成程。——では、あの、オリオトライ先生、先生のパーツでどこか触ったり揉んだりしたら減点されるとこあり申すか？ または逆にボーナスポイント出るようなことか。」 「あはは、授業始まる前に死にたいのはお前ら二人か？」

半目で言ったオリオトライは舌を出しながら言う。

「——んじゃ」

それに皆が反応する中、先生が意表をついて先に移動し始めた事で学生と教師による体育という名の艦上破壊レースが始まりまった。その後、模擬戦兼マラソンと対魔人戦のやり方の三つと相成り、”生徒会長 葵・トーリ”の胸モミによって今日の一時間目の授業が終わったのはまた別の話。

●

左右三艦を双胴とする中央二艦という凹型の構成の中、右側中央に位置する右舷二番艦 多摩上に軽食屋の青雷亭はあった。ブルーサンダー

先程起こった教師による体育という名の奥多摩から移動してくる人災に様々な店の店主達が慌てる中、開店し続けている豪の店である。質素な作りの店内で、様々なパンの並ぶ棚。

そして、外で水まきをする白い長髪的女性型人形。

自律して動く人形故に通称、自動人形。

店内には女店主と他にもう一人、客として脱色した様な不自然な白い短髪で四月という暖かい季節だというのに袖の長くまるでコート様に改造した制服と枯れ草模様のマフラーを着た小柄な学生が居た。店外には店員である彼女 P - 01s が水まきのついでに黒藻の獣に水をやっている。

学生は牛乳を一気に飲み干しながら通神を見ている。

その名も【武蔵通神】。

「……………また項目が増える。会長が如何に迷惑をかけているかがよく分かるよ。まったく、庶務の身で雑用する僕の立場にもなつてよ。他国がこれを見たらどう思っただろ、これ。……………いや、案外こんなもんだらうと納得するかな？」

そんな彼の腕には、” 庶務 塚原・ト伝 ” と書かれた腕章がついてある。

彼は小等部で剣道の指導した後、この青雷亭で次の授業に出席する前に遅めの朝食をすませている所だ。ブルーサンダー

そして、ト伝が食べている途中、青雷亭の店主はある事に気付く。

「あれ？ト伝さん、連れの左門ちゃんは？」

「ん？いないの？おかしいな。おーい、左門。」

ト伝は、犬や猫を探す様に声をかけるが、店の中には二人以外は誰もいない。

「まったく、また何処かで油売っているよ絶対。」

ト伝は、中場諦めたのか深い溜息をついて言う。

「まあまあ、ト伝さん。左門ちゃんも良い年頃なんだからさ。」

「確かに良い年頃かも知れませんが、————自動人形ですよあれ。まあ、……………制作者が捻くれている以上作品である自動人形も捻くれるのも納得出来ますが。」

そんな事を言っていると店の外で人が倒れる音がした。

何なのかと思いト伝は外を見てみるとそこには武蔵アリアダスト学院の”副会長 本田・正純”が倒れていた。そして、倒れている近くには長身で水色の長髪をなびかせるト伝の付き添いの自動人形である”庶務補佐 山崎・左門”がいる。

P-01sは、倒れた人物を見て店の方に声を掛けた。

「店主、お客様です。左門様のせいで正純様が、見た感じで申しますと、————餓死寸前で。」

「まあ、見ればそうだな。……………僕の責任でもあるし店の中に運ぶの手伝うよ。」

自動人形のやらかした事は主人の責任であると言わんばかりに正純を肩に抱えて運ぶ塚原・ト伝。

これは武蔵アリアダスト学院の当たり前前の日常。

だが、この日常が今この瞬間も崩壊している事をまだ誰も知らない。

境界線上に存在する庶務（後書き）

オリキャラ紹介

名：塚原・ト伝 つかはら・ぼくでん

属：武蔵アリアダスト学院

役：生徒会庶務

種：近接武術師 ストライクフォーサー

特：やれば出来る子

名：山崎・左門 やまざき・さもん

属：武蔵アリアダスト学院

役：生徒会庶務補佐

種：近接格闘師 クリティカルフォーサー

特：悪ふざけが大好きな自動人形

後々しつかりとしたオリキャラ紹介を書こうと思います。――以
上。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6196x/>

境界線上の庶務

2011年10月31日02時23分発行